

自分の思いを豊かに表現できる子どもの育成

～自ら考え、ともに学びあう国語科学習指導の工夫～

—宇部市立常盤小学校—

1 学校紹介

東南に周防灘を望み、西に常盤公園の水と緑に囲まれ、自然環境に恵まれている。農村地域の旧西岐波校区と都市的様相をもつ恩田校区の一部を合併し、昭和53年4月、現在地に開校して本年度で29年目を迎える。

近年、宅地造成に伴い、新興住宅地や団地が点在し、新旧うまく融合しあって校外住宅地として閑静な環境を形成している。保護者の教育的関心は高く、理解も深い。

学校教育目標

人間尊重の精神を基調として、知・徳・体の調和を重視し、豊かな人間性と心身ともたくましい実践力のある“ときわの子ども”を育てる。

めざす子ども像

美しく・たくましく・かしこく

2 研究の概要

(1) 研究主題「自分の思いを豊かに表現できる子どもの育成」

サブテーマ「自ら考え、ともに学びあう国語科学習指導の工夫」

(2) 研究主題に迫るための指針

- ① 国語科の学習過程を工夫することによって、児童一人ひとりが、自ら考え、ともに学びあうことができる。
- ② 言語環境を整えることによって、学びを支え、表現力を育むことができる。

(3) 研究内容

指針①に対して

国語科の学習過程を工夫することによって、児童一人ひとりが、自ら考え、ともに学びあうことができる。

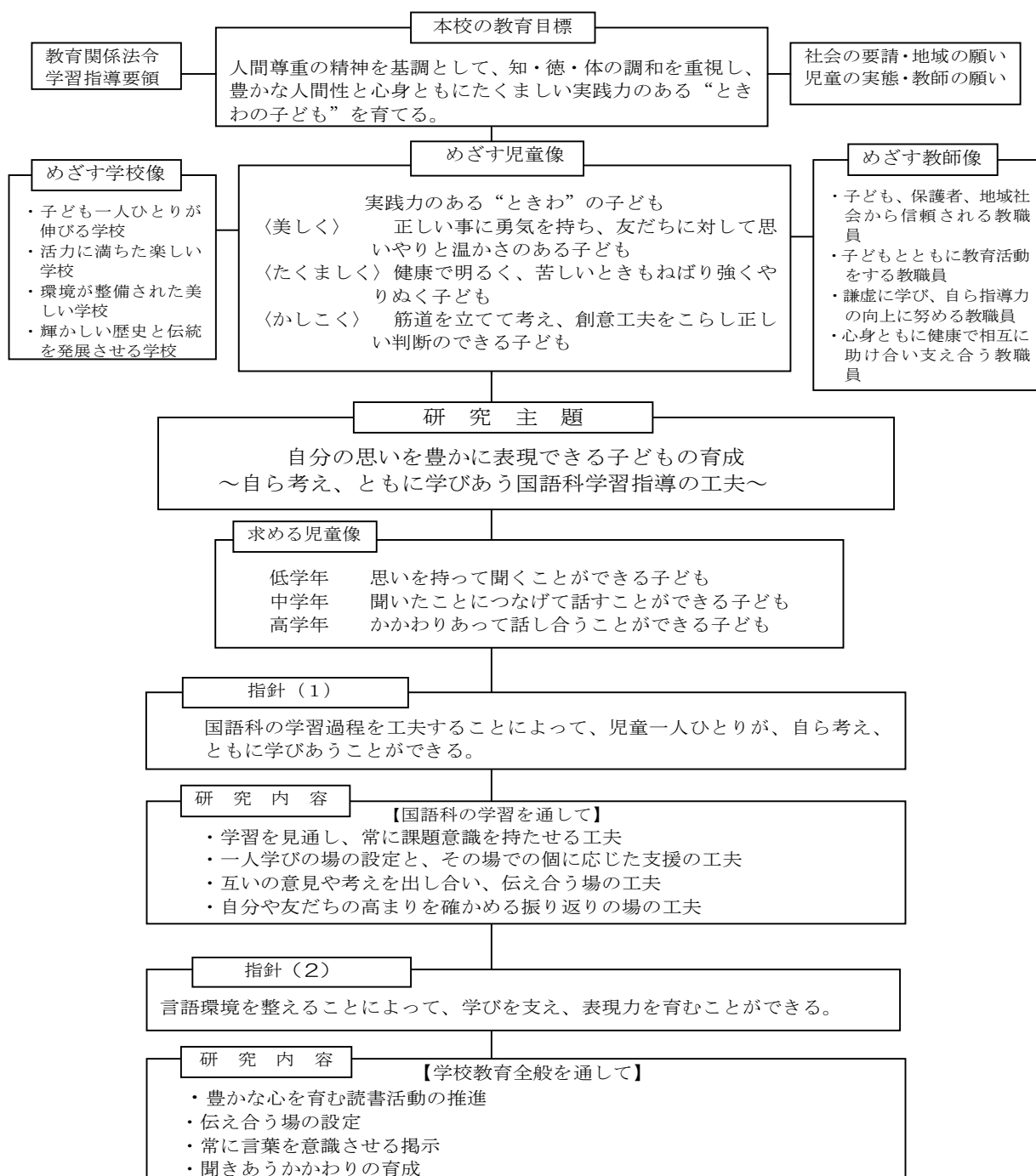
- ・ 学習を見通し、常に課題意識を持たせる工夫
- ・ 一人学びの場の設定と、その場での個に応じた支援の工夫
- ・ 互いの意見や考えを出し合い、伝え合う場の工夫
- ・ 自分や友達の高まりを確かめる振り返りの場の工夫

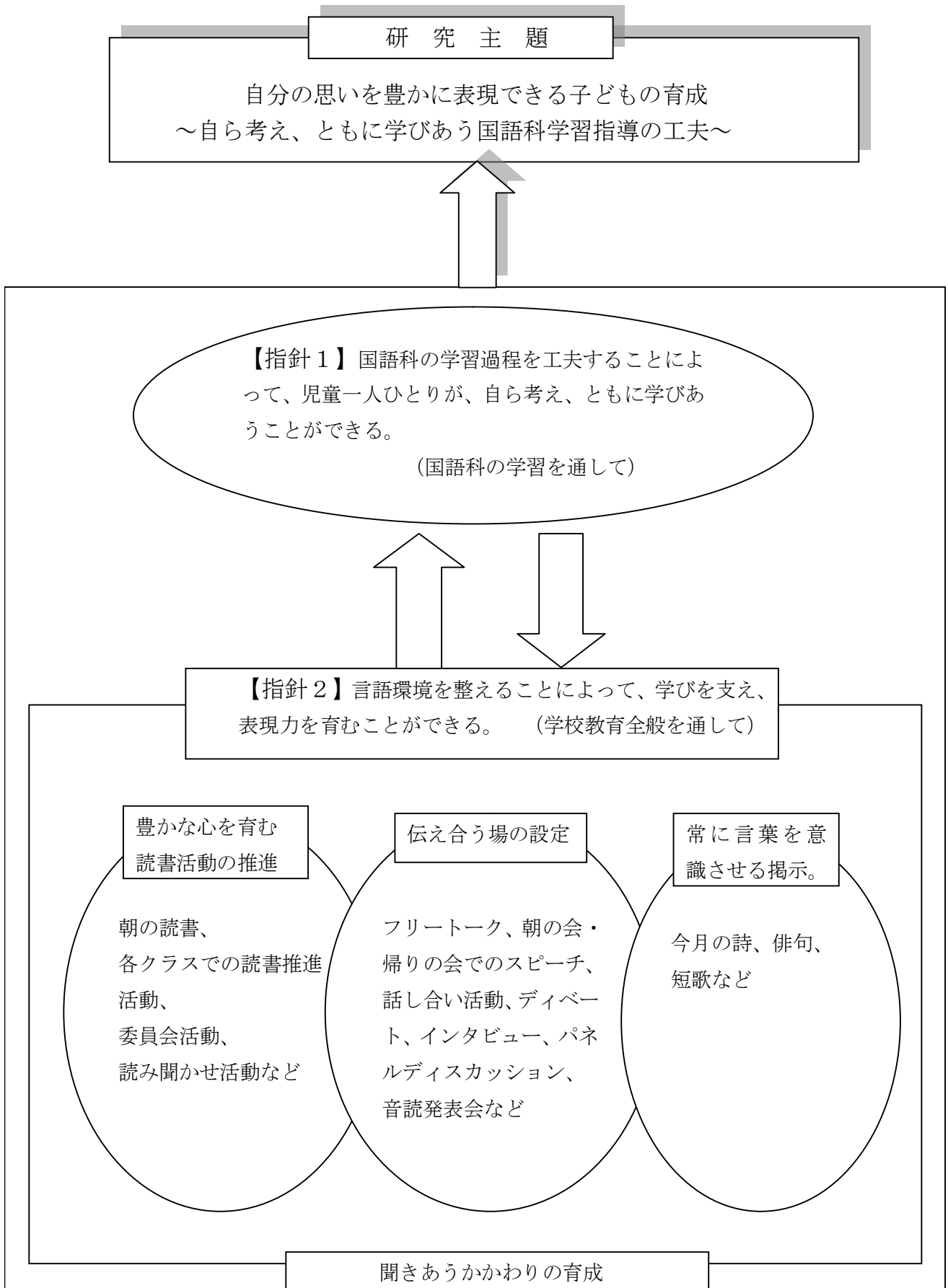
指針②に対して

言語環境を整えることによって、学びを支え、表現力を育むことができる。

- ・ 豊かな心を育む読書活動の推進
(朝の読書、各クラスでの読書推進活動、委員会活動、読み聞かせ活動など)
- ・ 伝え合う場の設定 (フリートーク、音読発表会、話し合い活動、ディベート、インタビュー、パネルディスカッションなど)
- ・ 常に言葉を意識させる活動 (今月の詩、俳句、短歌など)
- ・ 聞きあうかかわりの育成 (国語科学習を含めた、全教育活動を通して)

(4) 研究構想図 ①





(5) 研究年次計画

- 1年次
 - ・ 自分の思いをもつこと（一人学び）に重点を置き、授業改善を図る。
 - ・ 言語環境を整える。（全校一斉活動の取組、各学年の取組）
 - ・ 現状の把握及び課題の明確化
 - ・ 授業研究

- 2年次
 - ・ 自分の思いをもつこと（一人学び）と学びあいに重点を置き、授業改善を図る。
 - ・ 言語環境を整える。（全校一斉活動の充実、各学年の取組）
 - ・ 生活習慣の見直し及び健全化
 - ・ 現状の把握及び課題の明確化
 - ・ 授業研究
 - ・ 評価（学習評価・授業評価）

- 3年次
 - ・ 学びあいと評価を生かした授業改善に重点を置く。
 - ・ 言語環境を整える。（全校一斉活動の充実、定着。読書活動の推進と習慣化。各学年の取組）
 - ・ 生活習慣の見直し及び健全化
 - ・ 授業研究
 - ・ 評価（学習評価・授業評価）
 - ・ 現状の把握及び課題の明確化

3 18年度の取組における重点項目

指針①について

- ・ 自分の思いをもつことと学びあいに重点を置き、授業改善を図る。
- ・ **考えるための書く活動を重視する。**
- ・ 話し合いを深めるための教師の支援を大切に考える。
- ・ **授業改善に生かす評価の在り方をさぐる。**

ア 考えるための書く活動の重視

見通す段階

この時点における自分の考えをはっきりさせることができ、次の学習への意欲付けにもなる。

考える段階・伝え合う段階

「書く」時に個に合った支援をしていくことで、課題に対する自分なりの考えをしっかりともつことができる。またこれは、発表するための自信にもつながり、友達の発表をより真剣に聞くことができる。

振り返りの段階

「書く」ことで自分自身の変容、深まりを自覚できたり、友達のよさに気付いたりする。

実践事例

5年生 「わらぐつの中の神様」(物語文)

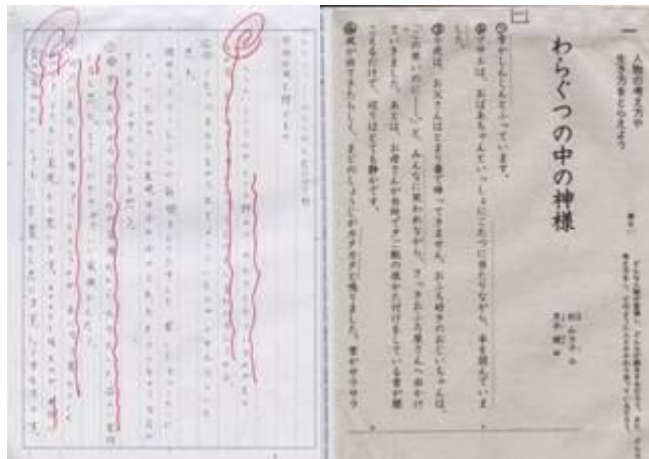
見通す段階

初発の感想



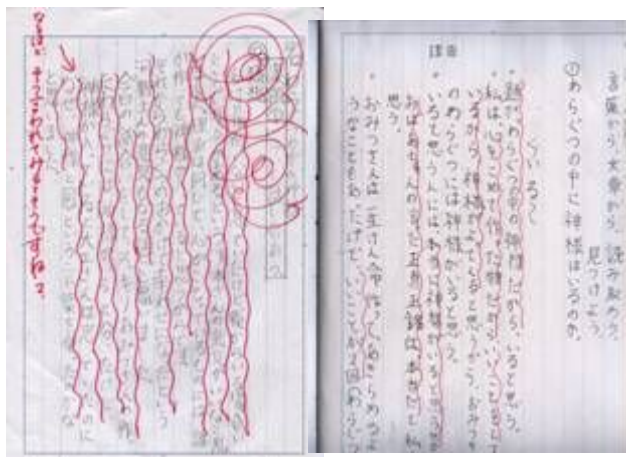
考える段階

読み取るための書き込



伝え合う段階

課題について自分なりの考えを
もとに話し合う。



振り返りの段階

話し合いを通して自分なりの
考えを深める



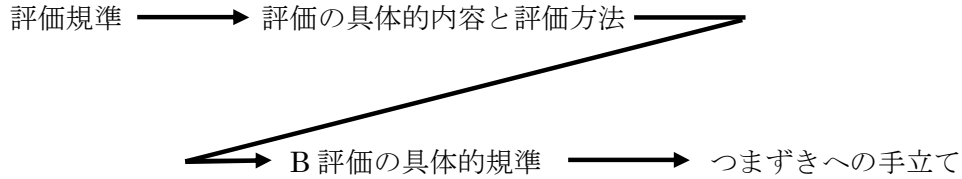
イ 授業改善に生かす評価のあり方

評価を学習評価と授業評価の2つに分けて考える。

学習評価

- ・ 到達目標を明確にする。(=単元の評価規準、学習活動における評価の具体的内容)
- ・ 評価項目の焦点化を図る。(5つの項目を、3つか4つに絞る。)
- ・ 評価の工夫(時期、対象、方法など)をする。
- ・ 評価と指導の一体化を図る。
- ・ 全員をB評価「おおむね満足」の状況に導く。(C評価の子どもをそのままにしておかない。)

学習評価の具体化



実践事例

3年生 「すがたをかえる大豆」(説明的文章)

評価表作成のための資料

教科(国語)

第(3)学年

単元名(すがたをかえる大豆・食べ物はかせになろう) 総時数(20) 時間 ページ(p22~p32)

	評価規準	評価の具体的内容と評価方法	B 評価の具体的規準	つまずきへの手立て
関心・意欲・態度	○大豆がすがたを変える不思議さを読み取ろうとしている。 ○身近な食べ物について興味をもち、伝えたいことが明確になるように、段落相互の関係に注意して文章にまとめようとしている。	★初発の感想を書いている。 【ノート】 ★調べることに必要な本や資料をさがし、大事なことを情報カードに書いている。 【カード】	・おもしろいと思ったことや不思議に思ったこと、筆者に言いたいことなどを自分の言葉で書いている。 ・本や資料をさがしたり、家の人に聞いたりして集めた情報を、カードに5枚以上書いている。	・どこがおもしろかった?不思議なところはなかった?など個別に問いかけ、思いを引き出してから書かせる。 ・図書資料を紹介したり、いっしょにさがしたりする。 ・カードを掲示し情報交換できるようにする。
	○中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、大豆を食べる工夫を正しく読み取っている。	★大豆をおいしく食べる工夫について正しく読み取っている。【ノート】 ★筆者の書いた説明文がなぜ分かりやすいのか、その書きぶりのよさを見つけている。【ノート】	・【にまめ】【きなこ】【とうふ】【なっとう・みそ・しょうゆ】【えだ豆・もやし】の食品名とおいしく食べる工夫が書き出している。 ・筆者の書きぶりのよさの中で、「初め・中・終わり」の段落の大きなまとまりについて理解している。	・個別に声をかけたり、ペアトークさせたりして考えを整理させる。 ・筆者のよい書きぶりである「工夫」という言葉のくり返しや、「次に」「さらに」という順序を表す言葉に着目させる。 ・折書き組写させます

評価表

教科(国語) 第(3)学年

(No. 1)

単元名	すがたをかえる大豆・食べ物はかせになろう		総時数	20 時間	ページ	P22~p32
観点	関心・意欲・態度	読む			書く	知識・理解・技能
評価規準	○大豆がすがたを変える不思議さを読み取ろうとしている。 ○身近な食べ物について興味をもち、伝えたいことが明確になるように、段落相互の関係に注意して文章にまとめようとしている。	○中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、大豆を食べる工夫を正しく読み取っている。 ○筆者について考え、それに対しての自分の考えを持っている。 ○進んで交流しながら、自分の読みを深めようとしている。			○身近な食べ物について情報を収集したり取捨選択したりしながら、段落に分けて文章にまとめている。	○新出漢字を読みかえ漢字の読み書きができる。【ノート・小テスト】
評価の具体的内容と評価方法	★初発の感想を書いている。【ノート】 ★調べることに必要な本や資料をさがし、大事なことを情報カードに書いている。【カード】	★大豆をおいしく食べる工夫について正しく読み取っている。【ノート】 ★筆者の書いた説明文がなぜ分かりやすいのか、その書きぶりのよさを見つけている。【ノート】	★筆者はなぜ大豆のことを取り上げたのかという点について、自分の考えを書いている。【ノート】 ★お互いの考えの交流を通して、一人ひとりの考え方がいやや友達の考えのよさに気づき、自分の読みを深めている。【交流での発言・ノート】	★情報カードを整理し、調べたことを段落に分けて文章に書いている。【ノート】		
評価月日						
1						
2						

授業評価

- ・児童による授業評価、教師による授業評価をする。

指針②について

全校一斉活動の充実と読書活動の推進を図る。

全校一斉活動の充実

(1) 活動内容・目的

①朝の読書

目的

- ・ 読書に親しんだり、その楽しさを味わわせたりする機会を意図的に設け、読書の習慣化を図る。
- ・ 作者が文字で描いた世界を自分の頭の中で想像し思いを膨らませることで、知的な楽しみの世界を広げるとともに、心情を養う。
- ・ さまざまな文章や言葉に触れることで言語感覚をみがく。



②フリートーク

目的

- ・ 教師による児童理解の深化・日常の「気がかり」の掘り起こしをする。
- ・ 子ども同士の相互理解を深める。
- ・ 「聴くこと」を主とした「話す力」を育てる。



③音読発表会

目的

- ・ 「音読を全校のみんなの前で発表しよう。」というめあてをもたせることで、平素の学習や家庭での音読練習の意欲付けとする。
- ・ 多くの人前で声を出し発表することで、発表に対する自信をつけさせるとともに、その心地よさを味わわせる。
- ・ 他学年の発表を聞くことでそのよさに気づくとともに、今後の実践の参考にさせる。



(2) 活動計画

○ 読書・フリートークの週計画

月	火	水	木	金
フリートーク	朝学 (職朝)	朝の読書	フリートーク	読書 (職朝)
		フリートーク		

朝・・・8：20～8：30

放課後・・・13：15～13：30

- 音読発表会
学期に2回、水曜日に、それぞれ3学年ずつ発表する。(各学年、学期に1回)

4 今後の課題

- 学びあいを通して授業を深めていくこと
学習段階「互いの意見や考えを出し合い、伝え合う場の工夫」における話し合いをつなげていくための教師の支援、話し合いを深めていくための支援や板書のあり方等、教師のかかわり方について研修を深めていく。
- 研究内容の具体化を図ること
それぞれの手立てに対して、どんな計画において、どんな様式のもの、どんな場面で、どんな使い方をしたかについて等、具体的に検証していく。
- 「書く」ことを積極的に取り入れること
- 指導に生かす評価の実践を進めること
常にその単元のねらいをはっきりさせる意識をもつこと、規準意識をもつこと、評価の工夫をすること、それぞれの場における支援するためのいろいろな手立てをもつことをめざし、研修を継続していく。